

...omitted...

2. Claim of Utility Model

1) A washing apparatus for a washing toilet and a washing nozzle wherein a ring-shaped shower 4, including a hood 3 integrally formed on an upper half portion of the shower, is attached to a tip of a pipe 6 that houses a pipe 2 with a slidable washing nozzle 1, and spray holes 4' are formed on the circumference of the shower so that water can be injected from the spray holes at oblique angles and be focused on a front center, whereby water is continuously injected to the periphery of the pipe 2 with the washing nozzle 1 and to the washing nozzle 1 during an expanding/contracting operation in which they are slidably drawn in/out, thereby enabling repetitive washing before and after the use of a sanitary washing apparatus.

2) The washing apparatus for a washing toilet and a washing nozzle as recited in claim 1 of "Claim of Utility Model," wherein a pipe-shaped shower 4 is provided in an upper portion of a housing in a swing-type washing nozzle 1 at a position along the washing nozzle 1 and a mounting pipe 2, thereby enabling washing with focused water jet from the upper portion when the nozzle is housed.

...omitted...

Fig. 1 is a longitudinal sectional view showing the

state where a ring-shaped shower 4 with a hood 3 is attached and operated in an automatically slidable washing apparatus in the embodiment of the present invention.

...omitted...

1: nozzle; 1': spray hole; 2: pipe; 3: hood; 4: shower; 4': spray hole; 5: upper surface of toilet; and 6: pipe

公開実用平成 1-180573

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平1-180573

⑬ Int. Cl.⁴
E 03 D 9/08

識別記号 庁内整理番号
F-7014-2D

⑭ 公開 平成1年(1989)12月26日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 洗淨便器洗淨ノズル用洗淨装置

⑯ 実 願 昭63-75751

⑰ 出 願 昭63(1988)6月7日

⑱ 考 案 者 福 田 悦 蔵 長野県上伊那郡宮田村3935-1

⑲ 出 願 人 福 田 悦 蔵 長野県上伊那郡宮田村3935-1

明 細 書

1. 考案の名称

洗浄便器洗浄ノズル用洗浄装置

2. 実用新案登録請求の範囲

1) スライド自在の洗浄ノズル1付きパイプ2を収納するパイプ6の先端部位に、フード部3を上半部に一体構成するリング状のシャワー部4を取り付けておき、その円周位の噴出口4'をそれぞれ斜角度で手前中心位に集中射水できるように角度形成しておくことによって、衛生洗浄装置の使用前後において出納スライド伸縮作動中の洗浄ノズル1付きパイプ2の周開と洗浄ノズル1を継続射水して反復洗浄できるようにした洗浄便器洗浄ノズル用洗浄装置。

2) スイング式洗浄ノズル1の収納部内の上部位で洗浄ノズル1と取り付けパイプ2に沿った位置に、パイプ状のシャワー部4を設けておくことによって、収納時に上部からの集中射水洗浄ができるようにした「実用新案登録請求の範囲」第1項記載の洗浄便器洗浄ノズル用洗浄装置。

3. 考案の詳細な説明

本考案は洗浄便器洗浄ノズル用洗浄装置に関するものである。

<従来の利用上での問題点>

市販の商品名「ウォッシュレット」、「シャワートイレ」等の洗浄便器は今やアメニティ・ブームによる注目のトレンド商品の一つであるといえる。そして排便後の洗浄機能については、生理的に快適且つ清潔であることに問題はないが、その体位からも必然的に下からの洗浄方法でシャワー角度が後方45度、又は垂直噴出であり、それぞれの効果が計算されているのであるが、いずれにしても汚れを落とすということからいって汚水として流落させることになり、そのつどノズル及び取り付けパイプが汚物、汚水を浴びることになる。勿論ノズルの自動洗浄装置があるわけで、それは収納後と使用前にリモコン操作で行なわれるようになっているが、それもノズル噴出口周辺が対象となっている。

例えばオートスライド式のものにあっては、洗浄方法によっては肛門の真下までノズル先端部を伸ばし、又は噴射角度の関係で少し離れているとしても、結果的にいずれも便器内での中央寄りに位置することになり、トイレというプライベート・エリアにおける利用者の各人各様の対応と生理的要件の多様性を考えれば、流落する洗浄水で同時に洗うといったものでは充分でなく、予期せざる汚れがノズル取り付けパイプにも付着し、僅かな汚れでも使用頻度

によってはスライドのポンピング作用によって収納パイプ内部が汚れることになり不潔である。又スイング式のものも便器内では同様であり、スイング動作での変位でノズル噴出口面が収納部内では側方に向くので、収納後や使用前の自動洗浄効果もノズル噴出口周辺部のみに止まり、ノズル取り付け部パイプ周辺部が洗浄されないので汚れが残り、場所柄だけに汚物が付着しているのに気がつかない場合があり、不潔である。

＜本考案による問題の解決法＞

本考案の目的は上記の欠点を除き、スライド式のものにあっては収納パイプの先端部にリング状のシャワー部を設け、ノズル付きパイプ周辺を出納スライド時の伸縮作動中を斜角度で集中継続射水するという付加価値を与えることで、汚物、汚水を洗浄し、又スイング式にあっては収納部内の上部にノズル及びノズル付きパイプに沿ってのシャワー部を設けることによって前述同様の付加価値効果を与え、その側面及び周辺部の清潔を共に常時維持することができるという利点を生むことである。

＜本考案の構造＞

以下図示の実施例に基づいて、本考案を説明する。第1～4図に示すように本考案は、スライド自在

の洗浄ノズル1付きパイプ2を収納するパイプ6の先端部位に洗浄水飛沫防止用のフード部3を上半部に一体構成したリング状の円形シャワー部4を取り付けておき、その円周位の噴出口4'を斜角度で手前中心位に集中射水できるようにし、且つ洗浄ノズル1付きパイプ2が伸縮スライド作動中連動射出するようにしておく。

なお、スイング自在の洗浄ノズル1付きパイプ2の場合は、その収納部内の上部位に洗浄ノズル1と取り付けパイプ2に沿った位置にパイプ状のシャワー部4をとりつけて、収納時に集中射水ができるようにしておく。

このようにすると、従来の洗浄ノズル1の噴出口1'での自噴洗浄のみによる限られた周辺の洗浄だけでなく、便器内で汚水に浴した洗浄ノズル1及び取り付けパイプ2の周辺部が、伸縮スライド作動中を反復して、又はスイング収納時において更に効果的に洗浄されるようになる。

本考案の使用に当っては、普通の洗浄便器同様に扱えばよい。そして洗浄ノズル1がオートスライド式のものにあつては、通常のノズル自動洗浄に加えて、オートスライドの伸縮作動時に洗浄ノズル1付きパイプ2の摺動部周辺の反復自動洗浄が付加され

ている。又スイング式のものにあっては、収納時のノズル洗浄操作に洗浄ノズル1及び収納部内上部からのシャワーによる取り付けパイプ2周辺の洗浄が連動して付加されているので、いずれの方法も別に特別な操作は必要としないというも、本考案の特徴である。

＜本考案の使用効果＞

洗浄便器は拭くより洗うということを目的としたもので、機能的でかつ生理的效果にも優れたシステムではあるが、普通の水洗便器を例にとれば、いくら水洗といっても単なる洗い流しだけでは、使用により又使用頻度によってはどうしても便器内に汚れがつき、清掃が必要となる。

洗浄便器も例外ではなく、いずれの方法も洗浄ノズル及び取り付けパイプが便器内に位置して、下から洗浄水を噴射して洗い落とすことになるので汚水を浴びる。又洗浄経過により汚水とはいえなくなった状態でも、肌にとって流落下するということで、事後収納部内での洗浄ノズル先端のみの自噴出洗浄だけでは、生理的に不潔感を持つことになる。

これに対し本考案は、使用前後における洗浄ノズル先端のみの自噴出洗浄に加えてオートスライド式のものには、使用前後の洗浄ノズル及び取り付けパ

イブの出納自動スライド時に連動して、伸縮摺動部周辺の継続集中射水での反復洗浄を、又スイング式のものには、収納部内において使用の前後に洗浄ノズル及び取り付けパイプ周辺に沿って、上部から集中射水洗浄が併用できることになっているので、直接器具の洗浄効果を促進し、清潔を維持することができ、使用者の不快、不満感を一掃するという利点がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の実施におけるオートスライド式で、フード部3付きのリング状シャワー部4の取り付けと作動の状態を示す縦断面図、第2図は第1図の正面図、第3図は本考案の実施におけるスイング式で、収納部内でのパイプ状シャワー部4の取り付けと作動の状態を示す正面図、第4図は第3図の側面図。

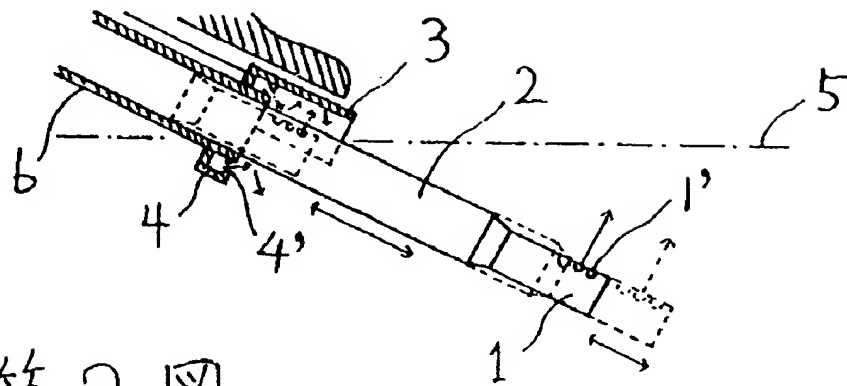
1・・・ノズル、1'・・・噴出口、2・・・パイプ、3・・・フード部、4・・・シャワー部、4'・・・噴出口、5・・・便器上面、6・・・パイプ。

(図1)

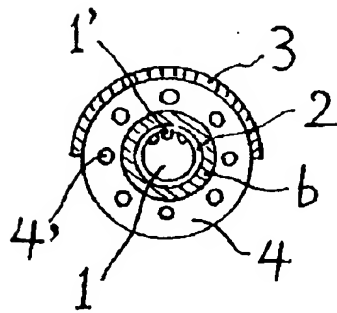
実用新案登録出願人 福田 悦蔵

(図2)

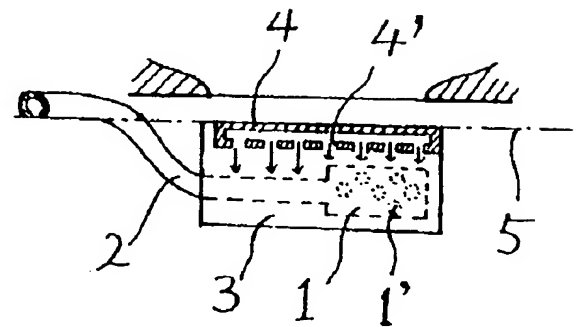
第 1 図



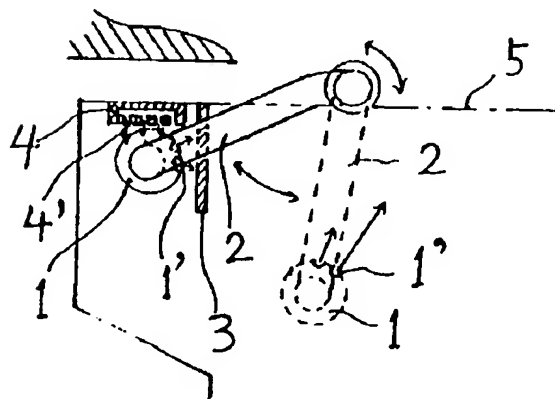
第 2 図



第 3 図



第 4 図



835

中圖 139, 72

實用新案登録出願人 福田悦蔵